



このとい通信

漢方・鍼灸をもっとよく知って
体の調子を整えよう！

体と心のバランスを整えながら健康になる中医学

症状が1つの部位に限られていても、病気だけを診るのではなく、体全体を診て治療する中医学。私たちになじみのある西洋医学とは、まったく異なる理論体系に基づく中国の伝統医学です。

中国で行われている
伝統医学が中医学

伝統医学とは2000年以上の長い歴史の中で得た「経験の蓄積」を根拠とする経験医学です。

ただし中医学では、この経験医学に「気血学説」「陰陽学説」「五行学説」という3つの古代哲学が理論の支柱になっています。つまり、私たちのなじみのある現代医学とは、まったく異なる理論体系に基づく医学です。

病名ではなく
「証」に基づいて治療する

中医学の特徴の1つは、疾病によ

って体に表れたさまざまな症状だけでなく、顔色、舌脈などの状態から総合的に考える



「証」を基に治療法を決めます。

さらに中医学の特徴としてあげられるのが「未病」を治すという考えです。未病とは病気の前段階で、何となく調子がすぐれない、体がだるい、イライラするなど、いわゆる不定愁訴などで、予防対策が必要な状態のことです。未病の状態を分析することで個々の体質に合わせた予防法が確立されています。

病気に対するアプローチが
まったく違う

どちらが優れているということではありませんが、西洋医学と中医学では医学の成り立ちが異なるため、病気へのアプローチも違います。

西洋医学は病気に対して、臓器や細胞レベルまで細かく診て、検査データを重要視します。また、体質よりも、症状・検査データに対して治療を行います。得意なのは、急性疾患、外傷、救急疾患、検査で分かる疾患、外科手術などで、体に不要な

ものを取り除くことです。一方、中医学は、病気を体全体、さらに成育環境や季節までもふくめて、体質の形成を重視しながら原因を追及し、中医学の証に合わせて診ます。病名ではなく、主に体質と症状を組み合わせて治療を行います。得意なのは、慢性疾患、不定愁訴、虚弱体質、ホルモンの失調、免疫の異常、老化現象などです。

保険適用の漢方薬では十分な
治療ができないことも

漢方薬が厚生省(現・厚生労働省)から健康保険の適用認可がおりたのは、1976年のことです。

しかし、健康保険の適用は147種類の漢方に限られています。これは漢方薬全体の1、2割程度です。から体質、症状によっては保険適用の漢方薬だけでは治療できないこともあります。

漢方薬は、同じ種類の生薬の組み合わせでも、服用する人の体質や症状により、その配分を変えるなど加減も違ってきます。保険適用になっているものは既製品なので、細かい調整は難しいのです。保険適用外であれば、一人ひとりに合ったオーダーメイドの漢方薬を処方することが可能です。



【五臓】相互作用や相互変化する五臓

西洋医学では、五臓は臓器そのものをさしますが、中医学では、古代哲学の「五行学説」に基づいています。五行学説とは、宇宙の森羅万象はすべて「木・火・土・金・水」（もく・か・ど・きん・すい）の5つに分類され、これら5つの相互作用や相互変化によって構成されているという理論です。五臓もこの五行学説にあてはめられるとされ、それぞれの臓器やその働きを促したり抑えたりする関係が成立するのです。五臓は、肝（かん）、心（しん）、脾（ひ）、肺（はい）、腎（じん）に分けられます。

【腎】生殖・発育を司る

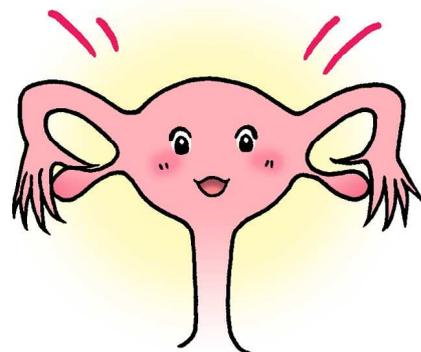
西洋医学で腎臓といえば、体液から不要な物質を膀胱へ運んで尿として排出する臓器ですが、中医学の「腎」はその機能以外に、生殖や成長、ホルモンの分泌や免疫全般などの総括をするとされます。あらゆる生体活動の源は「腎」にあると中医学では捉えられます。また、この「腎」に蓄えられた「腎精」が尽きるときに生命も尽きてしまうと考えられています。つまり、一般的な「老化」は「腎」の状態次第ということになります。

腎を補って卵巣機能の働きを活発に

生まれた時点ですでに決まっている卵子細胞の数。それが初経のころより原始卵胞が活発化し、約190日かかって排卵します。卵巣機能を改善するために、腎を補う漢方薬を最低6ヶ月服用して、コンディションの良い卵子をつくりましょう。

「補腎薬」を服薬すれば 卵巣年齢が実年齢より若くなる

卵子は女性の体でつねに作り続けているわけではなく、卵子の前身の原始卵胞はすべて生まれたときすでに卵巣にありま



す。つまり年齢とともにその数は減っていく一方なのです。ですから、妊娠の確率を最大にするためには「卵巣に残された卵子をいかに大切にするか」がポイントになります。中医学では女性の卵巣機能は「腎」にコントロールされていると考えます。この働きが悪いと、どうしても不妊傾向になるようです。腎を補うために一般の漢方薬だけではなく、鹿茸・紫河車などの動物性生薬を服用することで、卵巣機能をより高めることができます。高齢の方でも、腎を補うことによって卵巣年齢（腎年齢）を実年齢よりも若く維持することができると、より良い卵子の排卵が期待できます。

卵子は初経のころより原始卵胞が活発化し、発育卵胞、前卵胞卵胞、成熟卵胞と成長し、約190日かかって排卵します。つまり、質の良い卵子が育つ体内環境をつくるのも、最低6ヶ月は必要と考えましょう。